

福島第一原子力発電所の状況

2015年11月12日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約2.4 m ³ /h	22.9	0.4 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレイ系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約1.9 m ³ /h	28.3	4.21 kPa g	A系： 0.07 vol%
		炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約2.0 m ³ /h	27.1	0.26 kPa g	A系： 0.06 vol%
		炉心スプレイ系：約2.3 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

<2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (11/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	22.0 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	16.3 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	15.6 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

<3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/12 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<4. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- 2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- 2015/11/12 9:50 頃 共用プール建屋に設置されている、待機中の所内共通ディーゼル発電機(A)(以下、「所内共通 D/G(A)」)において、所内共通 D/G(A) 発電機反カップリング側の下部に潤滑油らしきものの滴下した跡を、パトロール中の当社社員が発見。このため、同日 10:31、一般回線にて双葉消防本部へ連絡。
現場を確認した結果、同日 10:45、所内共通 D/G(A)の発電機カップリング側下部にも潤滑油らしきものの滴下した跡を、新たに発見。
2箇所の滴下跡ともに、所内共通D/G(A)の発電機軸受けカバーボルト部から軸受け用潤滑油がにじみ、下部に滴下したと推定。なお、現在は潤滑油のにじみ及び滴下はないことを確認。同日 10:45、潤滑油プライミングポンプの運転を行い、漏えい確認を実施したが、当該軸受けカバーボルトからの油のにじみは確認されなかった。
潤滑油の滴下範囲については、発電機カップリング側が 30cm×5cm(深さなし)の油溜まりを確認し、発電機反カップリング側は床面 20cm×5cm(深さなし)の油溜まりを確認。同日 11:39、当該油溜まりについて拭き取りを実施。本件については、同日 11:43、双葉消防本部より「危険物漏えい事象ではない」と判断された。建屋内の堰内床表面上にてしみ状に止まっており、当該箇所から、建屋外へ流れ出ることはないと考えている。

2015/11/2 11:21 頃 高性能多核種除去設備において、フィルターのラインの切替作業を行っていたところ、当該ラインに設置してあるベント配管(空気抜き配管)より、水が漏れていることを当社社員が発見した。

水溜まりの範囲は、約5m×約10mであり、堰内に留まっており、外部への流出はない。なお、高性能多核種除去設備の運転を停止したことにより、漏えいは停止していた。

原因を調査した結果、高性能多核種除去設備の前処理設備を構成する弁の一つ(以下、「当該弁」という。)が開動作しないことを確認した。これによって、前処理設備が締切運転となり、系統内の圧力が上昇したことで逃し弁が動作し、逃し弁の下流側にあるドレン配管を介して、ベント配管※へ回り込み、その先端に取り付けてある異物混入防止用スクリーンから溢れて、漏えいに至ったものと判断した。

※高性能多核種除去設備が停止中に発生する水素を排出させるために設置した配管
当該弁が開動作しなかった原因としては、10/30に実施した弁交換時に、弁駆動部と弁体を繋ぐアダプターを接続していなかったことにより、弁体側に駆動力が伝わらずに当該弁が動作しなかったもの。当該弁については、弁体にあダプターを接続し、正常に動作することを確認した。また、ベント配管の先端にある異物混入防止用スクリーンについては、逃し弁が動作した場合の溢水防止として、暫定的に閉止フランジを取り付けた。本事象の発生に伴い、11/2より高性能多核種除去設備を停止していたが、当該弁が正常に動作することが確認できたことから、11/12午後より運転を再開する。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

・2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。

5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動なし。

7/17 7:06～7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。

7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

【サブドレン他水処理施設の状況】

・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。

9/17～サブドレン他水処理施設による地下水のくみ上げについて、昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え実施。

・一時貯水タンクAの当社および第三者機関による分析結果[採取日10/31]は同等の値であり、運用目標値を満足していることを確認したことから、11/12 10:20に海洋への排水を開始し、同日14:48に排水を停止。排水量は649m³。

・一時貯水タンクBの当社および第三者機関による分析結果[採取日11/2]は同等の値であり、運用目標値を満足していたことから、11/13に海洋へ排水予定。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井No.1～12のサンプリングを継続実施中。

・地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日10月29日]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることから、11/11 9:55から16:48にかけて排水を実施。排水状況について、漏えいなどの異常がないことを確認。排水量は1,722m³。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

＜最新のサンプリング実績＞

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

＜K排水路排水口のサンプリング実績＞

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

＜H4エリア周辺のサンプリング実績＞

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

＜H6エリア周辺のサンプリング実績＞

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

＜福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績＞

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

＜地下水観測孔・海水サンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

＜地下貯水槽サンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上